

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

スプリンター勢のレベルが高く層も厚いと言われているオーストラリアで今、破竹の快進撃を見せている快速馬インペラトリズ(牝5)が、今週のこのコラム主役である。

インペラトリズは、オーストラリア産馬。父は、G3・デーシーマツケイス(芝1000m)を制した他、G1グッドウッドH(芝1200m)2着などの成績を残した後、2010年にヤラマンパーク・スタッドで種牡馬入りしたアイアムインヴィンシブルだ。初年度産駒からブレイズンボウ、ヴードウーラッドといったG1勝ち馬が出現したアイアムインヴィンシブルは、13/14年のファーストシーズンサイヤーチャンピオンになると、その後もコンスタントに活躍馬を輩出。リーディング2位を4回経験した後、21/22年についてリーディングサイヤーのタイトルを獲得。22/23年シーズンも、その座を守っている。

母は、G2ムーニーヴァアレイフリーズクラシック(芝1600m)3着などの成績を残したベリンボウ(父シャマール)で、インペラトリズはその2番仔となる。

20年1月にマジックミリオン社が主催したゴールドコースト1歳市場に上場され、36万豪ドル(当時のレートで約2733万円)で購入されている。ちなみに、同セ

ールにおける最高価格馬は、190万豪ドルで購入された、父デービーインパクト・母オネステイプリヴェイルスの牡馬だった。

インペラトリズは、2歳秋にユージーランドでデビュー。同国でG1レヴィンクラシック(芝1600m)、G1ニュージラランドサラブレッドブリーダーズS(芝1600m)、G1レイルウェイS(芝1200m)、G1BCDグループスプリント(芝1400m)という4つのG1を含む9重賞を制した後、4歳シーズンの後半からオーストラリアの重賞に参戦するようになった。

メルボルンの南東およそ43キロほどの地点にある克蘭ボーンをオーストラリアにおける拠点としたインペラトリズは、同国における2戦目となったムーニーヴァレイのG1ウイリアムリッドS(芝1200m)を制し、オーストラリアにおけるG1初制覇を達成。この1戦をもって4歳シーズンを終えることになった。

この段階でシドニーの関係者からは、総賞金2千万豪ドルという、同国における最高賞金競走ジエヴェレスト(芝1200m)への参戦を熱心に誘われたが、陣営は克蘭ボーンを拠点にメルボルン地区のレースを標的にする路線を選択。5歳シーズンの始動戦となったムーニーヴァレイのG2マッキウエンS(芝1000m)を白

星で通過すると、同じくムーニーヴァレイを舞台としたG1モイアS(芝1000m)、G1マニカトS(芝1200m)を連勝。さらに、メルボルンのスプリングカーニヴァー最終日に行われたフレミントンのG1ダーレーチャンピオンズスプリント(芝1200m)も制し、重賞5連勝を飾るとともに、8度目のG1制覇を果たした。

レース振りは変幻自在。モイアSでは、前半8頭立ての7番手を追走後、直線に向くと馬群外を通って強烈な末脚を繰り出して差し切ったかと思えば、マニカトSでは、逃げて直線で後続を突き放す競馬を見せ、ダーレーチャンピオンズスプリントでは、好位から抜け出すという安全策で勝利している。

冒頭でも記したが、水準が高いと言われるオーストラリアの短距離路線でこれだけ抜きん出た実績を残せば、次に見えるのは海外制覇だ。陣営は英国遠征を視野に入れており、具体的には、24年6月に行われるロイヤルアスコットを舞台としたG1キングズスタンドS(芝5F)、あるいは、G1クイーンエリザベス2世ジュビリース(芝6F)が目標になる模様だ。インペラトリズの快進撃がどこまで続くか、24年の海外競馬における大きな見どころの1つとなりそうだ。